

水と風土記の里

ASAKUMI

朝酌

出雲国風土記と朝酌

朝酌は宍道湖から中海に流れる大橋川に接し、北側には嵩山・和久羅山、さらには遠く島根半島の山並みを望んでいる。地区内には、古いしえいから絶えることなく湧き出る清らかな水の目無水・邑美の清水、大井・福富、朝酌の清水等がある。その湧水に支えられて古代から稲作が盛んであり、農業を中心とする人々の営みがあった。

矢田地区では漁業、大井地区では農業も盛んであった。そのくらしの様子は出雲国風土記に詳細に記述され、朝酌の人々の生活を知ることができる。

当時、出雲地方の行政の中心であった出雲国庁（松江市大草町）や熊野大社から島根半島にいたる南北のルート（官道）が「矢田の渡し」を経て通っていた。南北のルートと東西に流れる川（大橋川）が交わる地点が朝酌の地である。

当時の人々の生活の証として朝酌各地には魚見塚古墳、岩屋古墳、旧朝酌小学校校庭古墳、廟所古墳等の古墳がある。また、魚見塚遺跡の調査では、前述の官道（杜北道）が発見され、「風土記」の記載を裏付ける大きな成果があった。

中世以降の朝酌

中世の朝酌は和久羅山に山城を構えた尼子軍と毛利軍の攻防の地となった。和久羅山には当時の山城の存在をうかがうことが出来る。さらに千六百年の関ヶ原の戦いを終って堀尾氏が広瀬に移封され、近世の楽市・楽座の開設に象徴される新しい経済体制を基盤とする城下町づくりが始まった。多くの家臣団、技術家集団等を養った城下町が必要となり、松江の亀田山に築城がはじめられた。なお、その築城に使われた石垣の石は大海崎からも切り出された。

松江に移った堀尾氏は徳川將軍の霊を祭った東照宮や圓流寺を西尾（現在の市立女子高の地）に建立し、その後松平氏が圓流寺の殿堂伽藍を建て歴代の藩主が篤く尊崇した。

なお、松平氏の家老であった村松直賢は豪壮な山荘を西尾町新山に構えた。

ホーランエンヤと朝酌

松江の城下町づくりに苦心した松平直政公は、城山稻荷神社御神霊を阿太加夜神社に移し五穀豊穡、武運長久を祈願した。日本・天舟神事の「つホーランエンヤ」はこの御神幸に端を発する。

文化五（一八〇八）年、稲荷神社のご神霊を乗せた船団が風に会い、難航したのを馬場の人々が見かね舟を出して救援した。このため次の式年である文政元（一八一八）年から曳船をつけることになった。馬場地区に続いて矢田・大井・福富・大海崎の四地区がそれぞれ船団を出し、現在の五地区（大地）によるホーランエンヤが整った。現在、ホーランエンヤは朝酌地区の重要な伝統行事である。

なお、平成二十四年十月に松江市殿町に松江ホーランエンヤ伝承館が開館した。



松江ホーランエンヤ伝承館



和久羅山頂より見た朝酌

アクセスガイド

（到達点は朝酌公民館）

- JR松江駅より路線バスで30分（朝酌公民館前バス下車）
- 出雲縁結び空港から40分（山陰道経由）



編集・発行

朝酌地区わがまち自慢発掘プロジェクト実行委員会

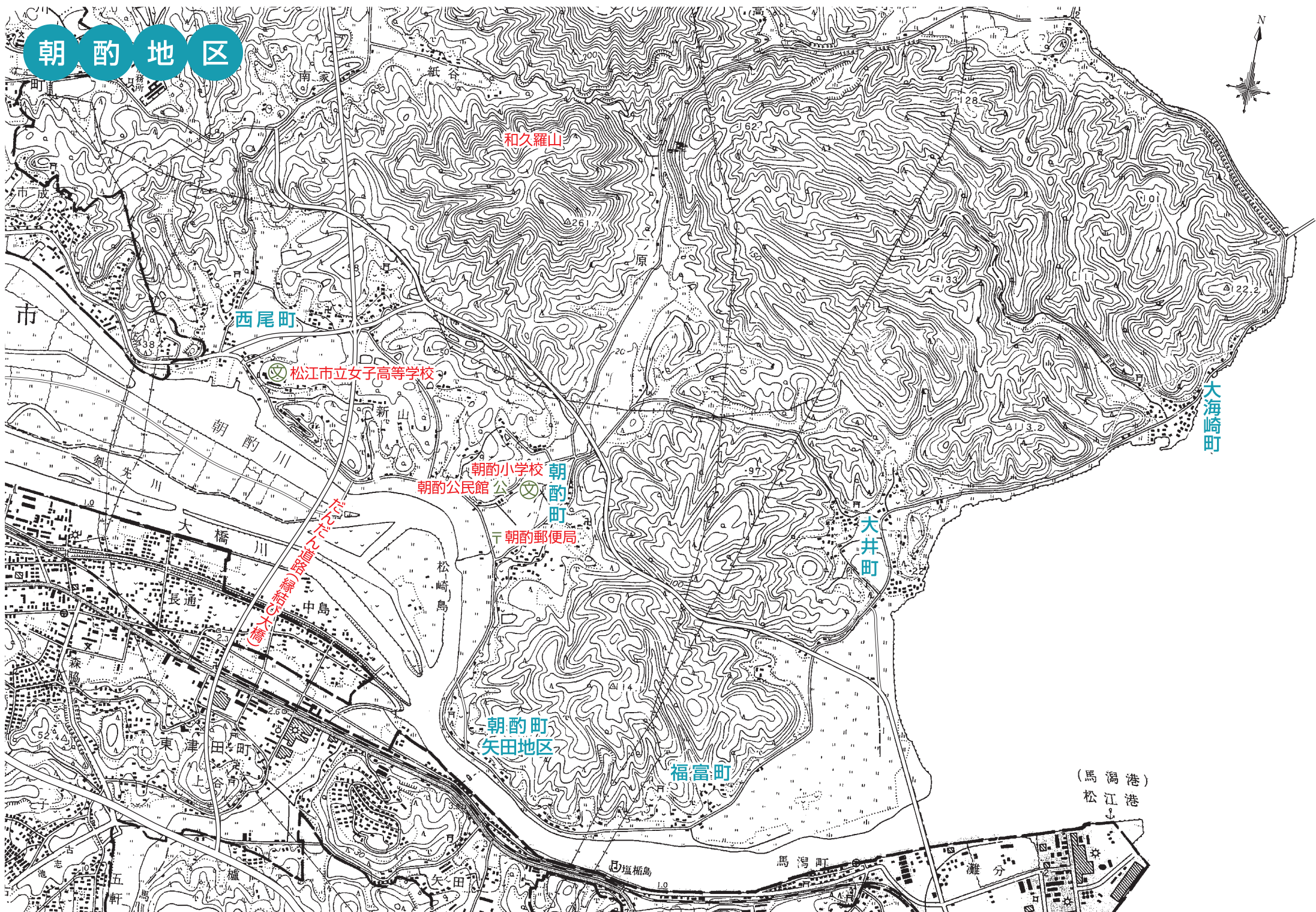
お問い合わせ先

松江市朝酌公民館

〒690-0834 松江市朝酌92-1
TEL 0852-39-0646

2020年7月改訂

朝酌地区



朝酌の産業

近年、大橋川、宍道湖での鯉（しじみ）漁が盛んになってきた。朝酌地区はその鯉漁に従事する世帯が多く地区の産業の一つである。最近の漁獲量は様々な要因により変動があるが、特産品として安定的な資源確保が課題となっている。

また、松江藩家老村松氏が京都宇治から種子を持ち帰り、この朝酌の地で栽培を始めたと言われるお茶は、現在朝酌の重要な産物となっている。さらに当時は櫛（はぜ）の栽培も行われ藩財政を潤したと伝えられる。

なお、稲作のほかに津田かぶの生産にも力を入れている。津田地区に栽培農家が少なくなる現在、津田かぶは朝酌の産物となり、かぶの「はで干し」は冬季の風物詩となっている。

これからの朝酌

朝酌には「ナカバヤシ（事務用品製造）」「松江バイオマス発電株式会社」などの企業が立地している。また縁結び大橋（第五大橋）だんだん道路が完全開通し、さらには大橋川改修事業を控え、事業完成の暁には朝酌の地は大きく姿を変えることが予想される。

出雲風土記の時代、人々の豊かな暮らしの舞台であった朝酌が、幾多の時代を経て移り変わってきた。将来とも、朝酌が豊かな暮らしの地であることを願っている。



津田かぶ



鯉漁



茶畑

和久羅山

嵩山

堀屋干拓より見た大井・大海崎地区

1 圓流寺 えんりゅうじ C-1



照光山圓流寺は西尾町にあり、天台宗の名刹で延暦寺の末寺である。寛永5年に堀尾忠晴が東照宮と共に霊廟を造んだ。その後松平直政が伽藍を建て徳川家光の霊を祀り、それ以降歴代の将軍の霊位を奉安した。寺格は興淵寺(平田)、清水寺(安来)と同格であった。当時は藩主の庇護があったが、明治以降は荒廃の一途をたどり、特に昭和40年松江市立女子高の建設に伴い伽藍、鳥居、石橋等は各所に移されて、現在は小堂が残るのみである。平成25年3月、地元奉賛会で改修。

2 志立の山公園 しだちのやまこうえん



志立の山公園は太陽団地の南西部(自治会館奥)に位置する。ここは松江藩第7代藩主治郷(不味公)の家老朝日丹波茂保の引退に際し贈られた山であり、その山荘が建てられていたと伝えられる。朝酌川添いの田園風景、街並み、宍道湖、松江城等が眺望出来る。

3 高称寺 こうしょうじ



西尾町郷戸にあり、聖観音菩薩像を安置し旧島根郡内第14番札所である。創建年代は享保年間。1971(昭和46)年木造平屋瓦葺の本堂が完成。

4 紐解神社 ひもときじんじや C-2



西尾町郷戸にあり、もと三社大明神といった。祭神は鵜葺草葺不合尊(うがやふきあへすのみこと)、豊玉姫命(とよたまひめのみこと)、玉依姫(たまよりひめ)の三神で安産の神として知られている。

5 常念寺 じょうねんじ C-3 E-1



西尾町客戸にあり浄土宗総本山京都知恩院の末寺で阿弥陀如来が本尊。創立は慶長年間の中頃、本堂庫裏は1819(文政2)年に再建された。境内には聖観音菩薩のお堂があり、旧島根郡内第15、16番の札所である。2000(平成12)年檀家の浄財により再建された。

6 天神神社 てんしんじんじや C-4



西尾町西谷にあり祭神は少彦根那神(すくなひこなのかみ)、創立及び由緒は不明。祭日は10月25日である。本殿、幣殿、拝殿がある。1996(平成8)年地元西谷集落の氏子により遷宮が行われた。

7 和久羅山 わくろさん E-2



朝酌町西北に位置し、海拔262mである。戦国時代尼子氏の城があった。床、二の床、三の床が向え、城址であったことがわかる。山頂からは中海、宍道湖、大橋川が見渡せ眺望が素晴らしい。地元ボランティアグループ「和久羅会」が定期的に登山道・山頂の整備を行っている。

8 廻原古墳 めぐりはらこふん



朝酌平野を望む丘陵上にある古墳群である。元10基以上あったようであるが、茶園造成により壊され現在は6基しかない。須恵器や刀が発見されたという。(写真:島根大学法文学部考古学研究室提供)

朝酌まち歩きマップ



9 旧朝酌小学校校庭古墳 きゅうあさくみしょうがうこう こつていこふん



旧朝酌小学校敷地内の丘陵斜面にあり、玄室は出雲型石棺室である。奥行き1.2m、横幅2.0m、高さ1.4mである。地元ボランティアグループ「和久羅会」が定期的に周辺の草刈を行っている。

10 禅定寺 ぜんじょうじ B-4 C-6



朝酌町にあり、天正年間に創立され、臨済宗南禅寺派に属している。阿弥陀如来を本尊とし、立像は蓮慶の作と伝えられている。境内の東の山から泉水が湧き出ることから山号は蔵水山と呼ばれるようになった。

11 岩屋古墳 いわやこふん



朝酌町の民家の敷地内にあり、大型の石棺式石室を有し、玄室は奥行き1.9m、横幅3.1m、高さ2.1mの横長タイプである。内部に壁画があったことが推察できる。

12 魚見塚古墳 うみづかこふん A-2



多賀神社の北側にあり、周囲180m、南の男衆、北の女衆からなる前方後円墳である。この辺りの豪族の墳墓と伝えられ、造られたのは5世紀後半〜6世紀前半頃と考えられる。多賀神社前の大橋川で恵比寿大神が魚釣りをするのを、全国から集まってきた神々が見物をしたと伝えられている。

13 多賀神社 たがじんじや A-2 D-4



祭神は須佐之男命(すさのおのみこと)他5柱である。出雲風土記にも記されている朝酌下社である。尼子氏の信仰厚く、また松平氏の藩社であり、神紋は三葉葵である。神在月に全国から出雲大社に集まられた神々が帰りの11月25日多賀神社に寄られててなしを受けられると伝えられている。

A 岡土記の里コース 徒歩片道約2時間(休憩・見学時間含む。以下同じ)

1 矢田の渡し — 2 多賀神社・魚見塚古墳 — 3 大井の清水 — 4 目無水(邑美の清水) — 5 りんごんさん

B 水の里をめぐりコース 徒歩片道約2時間半

1 目無水(邑美の清水) — 2 大井の清水 — 3 福富の清水 — 4 禅定寺

C 神社仏閣を訪ねるコース(西部) 徒歩片道約2時間

1 圓流寺 — 2 紐解神社 — 3 常念寺 — 4 天神神社 — 5 禅定寺

D 神社仏閣を訪ねるコース(東部) 徒歩片道約2時間

1 十二所神社 — 2 大井神社 — 3 福富神社跡 — 4 多賀神社

E 健康づくりコース(和久羅山登山) 徒歩片道約2時間半

1 常念寺 — 2 和久羅山 — 3 松江だんだん道路 — 4 縁結び大橋

20 りんごんさん A-6



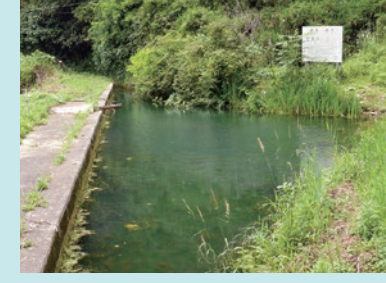
電宮神を祀り、祭日は4月17日である。ワラで設えた舟にお神酒、お餅、野菜などを供えて中海に浮かべ海の安全と豊漁を祈願する。

19 十二所神社 じゅうにしょじんじや D-1



大海崎町東谷にあり、伊装諸尊(いざなぎのみこと)等12の神々が祀られている。付近の谷からは清水が湧きだし飲料水、農業用水として活用されてきた。

18 目無水(邑美の清水) めなしみず(おおみのしみず) A-4 B-1



出雲風土記には「邑美(おうみ)の清水」と記されている。今は「目無水」と言われ島根名水百選1号である。絶えることなく湧き出でていることから「切れ目の無い湧水」という意味で「目無し」とであるという説もある。

17 大井神社・大井の清水 おおいじんじや おおいのしみず A-3 B-2 D-2



大井町宮山にあり、祭神は大国主尊(おおくにぬしのみこと)他6柱で、出雲風土記にも記されている由緒ある神社である。神社前には大井の清水が湧き、神々が朝の炊事に用いられたと伝説にある。「島根の名水」にも選定され、飲料水に、また農業用水にも利用されている。

16 極楽寺 ごくらくじ



東福富町のバス停付近から西方の山麓に向かって歩くとお堂がある。寛真阿闍梨が当地を巡錫して、本尊阿弥陀如来、脇侍聖観音・地藏菩薩を安置し伽藍を創立した、と伝説にある。島根道第6番札所である。

15 福富神社跡・福富の清水 ふくとみじんじやあと・ふくとみのしみず B-3 D-3



福富町のバス停から山の方へ歩くと古い社が見える。これが福富神社である。今は古くて小さなお堂しか残っていない。明治41年に朝酌町矢田の多賀神社に合祀された。福富の清水は福富神社の背後の山から流れ出ており、飲料水や野菜の洗浄用等に利用されている。

14 矢田の渡し やだのわたし A-1



出雲風土記に「朝酌促戸渡(あさくみせとのわたり)」と紹介されている。当時の渡しは現在より数百メートル東側にあったようであり、熊野大社から島根半島浦に至る官道の経由地であった。現在も渡し船が就航している。

13 多賀神社 たがじんじや A-2 D-4



祭神は須佐之男命(すさのおのみこと)他5柱である。出雲風土記にも記されている朝酌下社である。尼子氏の信仰厚く、また松平氏の藩社であり、神紋は三葉葵である。神在月に全国から出雲大社に集まられた神々が帰りの11月25日多賀神社に寄られててなしを受けられると伝えられている。